

おそなえ・おさがり・おすそわけ おてらおやつクラブとは？

今から約十二年前、東京からUターンして寺に戻った私が一番悩んだのは、「おそなえ（供物）」の問題だった。私がいる寺では、供養の法要の際に施主が菓子などのおそなえを用意する。それを本堂におそなえした上で、亡き大切な方を供養する法要を行う。法要が終わったあと、そのおそなえは、基本的には寺の者でおさがりとしていただくのだが（寺によっては施主が持ち帰るケースもある）、お手伝いに来られた方にお配りするなどしたもの、賞味期限が短いものなどはいただききれないケースが出てくる。「せっかくだいだいたものを無駄にせず、生かすことができないだろうか」と考える私の目に飛び込んできたのが「おてらおやつクラブ参加寺院募集」のネット記事だった。

皆さんは二〇一三年五月二十四日、大阪市北区のマンションの一室で母子が餓死状態で発見される事件があったことを覚えているだろうか？その部屋に残されていた一枚の手紙にあった「最後におなかいっぱい食べさせてあげたかった、ごめんね」という母親のメッセージは多くのの人に大きな衝撃を与えた。「おてらおやつクラブ」の活動は、当時そのニュースに接した一人の僧侶・松島靖朗師から始まった。お寺にある「おそなえ」を、「おさがり」として、必要としている人に「おすそわけ」する師の活動は次第に輪が広がっていき、二〇十七年に特定非営利活動法人おてらおやつクラブが設立された。二〇十八年には「既存の組織・人・もの・習慣をつなぎ直すだけで機能する仕組みの美しさ」が評価され、グッドデザイン賞（内閣総理大臣賞）を受賞。現在では約二千の寺院がこの取組に参加している。

加していただきたい。

この年末は「歳末たすけあい募金」などがおこなわれる時期でもある。読者の皆さんにはぜひそれらに協力いただき、少しでも多くの親子が笑顔で生活することができるよう共に手を携えて活動し、また、支援の輪を広げていきたいと思う。

※備考

当寺では、皆さまにお供えいただいた砂糖団子やお米、果物などについては、特定非営利活動法人セカンドハーベスト・ジャパン、大本山永平寺、大本山總持寺、ボランティアむつの会などに寄附させていただいております。また、供物の内容については、あくまでお施主さまのお気持ちが大切ですし、当寺としては引き続きそれを尊重しております。右の記事についてはあくまで参考としてお読みください。

『おてらおやつクラブ募金箱』へのご協力をお願いします。

当山でも協力している「おてらおやつクラブ」はお寺にお供えされるさまざまなおそなえを、仏さまからの「おさがり」としてお送りし、子どもをサポートする支援団体の協力の下、経済的に困難な状況にあるご家庭へ「おすそわけ」する活動を行っている認定NPO法人です。このほど、その活動資金を集



め、同法人にお送りするための募金箱を事務室前カウンスターに設置しました。令和五年三月現在、おてらおやつクラブを通して支援を待つ約二万六千人の子どもたちのために、ご協力の程宜しくお願いいたします。

おやつクラブの支援の仕組は二通りある。後方支援は「子ども支援団体に向けたおすそわけ」であり、子どもやひとり親家庭を支援している地域の団体へと届ける。直接支援は「ひとり親家庭に向けたおすそわけ」であり、さまざまな事情で支援につながるできないひとり親家庭に匿名でおすそわけを送る。私がい

る寺では、基本的には後方支援として、北東北の各支援団体に定期的におすそわけを送りつつ、クラブが年に数回行う直接支援にも参加している。クラブのマイページには支援先の団体や家庭からメッセージが届き、どれだけ苦しい思いをしているのか、また、お送りしたおすそわけがどのように役立っているかを確認することができ、仕組にも助けられ、気づけばクラブに参加して約十年となる。ここまで活動を続けることができたのも、檀信徒が「おそなえ」を寺に寄せてくださったからであり、また、多くの企業や団体、個人がおてらおやつクラブに寄付をして支えてくれているからである。この場を借りて謝意を表したい。また、クラブに参加していることを寺報で紹介して以降は、賞味期限の長いものや子どもたちが喜びそうなお供えをしてくださる方も増えており、この活動が檀信徒にも浸透していることを感じている。また、青森県で参加している寺院も年々増えており現在十四カ寺が参加している。

しかしながら、二〇二三年に厚生労働省から発表された最新の子どももの貧困率が11.5%（九人に一人が貧困状態）、ひとり親家庭の貧困率は44.5%（二人に一人が貧困状態）であったという事実を見れば、貧困状態は未だ改善されていないことがわかる。また、おてらおやつクラブは二〇二二年に全国二五五三世帯のひとり親家庭を対象に生活状況調査を行ったが、その結果、生活費の支払いに支障があった家庭が全体の七割強に上ることが明らかになっており、さらなる支援強化が必要である。この記事をお読みになっ

行事予告

甲辰春の大ツアー 小山彰太喜寿記念ライブツアー 第三弾道南、東北の旅



一九四七年に北海道生まれ、一九六九年早稲田大学入学と同時に早大ジャズ研に入部。数々のグループを経て、一九七六年「山下洋輔トリオ」に入団、八年間在籍。その後、自己のバンドをはじめ、多くのグループにも参加。二〇一三年に活動の拠点を札幌に移し、現在は「幽玄郷北方派」「T.K.O」といったユニットを基軸にいろいろと活動の場を広げているドラマー・小山彰太さんが、むつ市在住のフルート奏者・ボーカルの室館彩さんとベースリスト・オノアキさんとともに大安寺にて協演します。入場無料（投げ銭制）となっておりますのでどうぞお気軽にご来場ください。

■日時：令和六年五月十九日（日）

■開場：午後六時 ■開演：午後六時半

■会場：大安寺（青森県むつ市大畑町本町八十番地）

■入場料金：無料（投げ銭制）・自由席

■問合せ：電話 080-2042-8337（副住職）

メール info@daijanji.jp